

【研究シーズテーマ】

傾斜スタッドを用いて高剛性高耐力化した鋼とコンクリートの接合部

 工学部 建築工学科 教授 **貞末 和史**

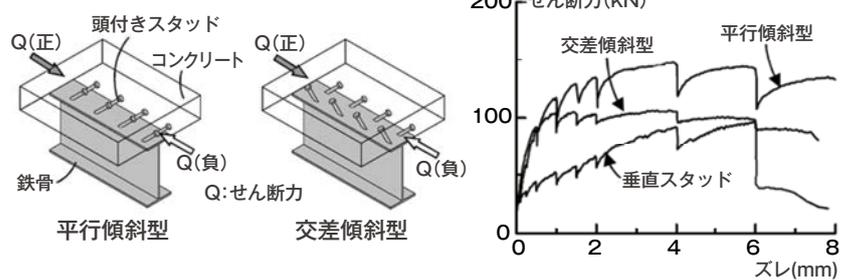
Keyword
合成構造／ずれ止め／頭付きスタッド


【研究シーズの概要】

鉄骨(鋼)とコンクリートのずれ止めとして普及している従来型の「垂直スタッド」は、「柔なずれ止め」であるため、鋼とコンクリートを組み合わせた合成部材に適用した際、組み合わせによる合成効果・相乗効果を十分に活かすできません。これに対して、頭付きスタッドを45°傾斜して溶接する「傾斜スタッド」では、「剛なずれ止め」の効果が得られるため、合成構造の構造性能を向上させることができます。



施工例



傾斜スタッドのせん断特性

【新規性・独自性・従来研究(技術)と比べての優位性】

- 傾斜スタッドの適用により、剛なずれ止め効果が得られます。
- 高強度スタッドの材料特性を設計強度に反映できます。
- 合成構造・混合構造の合成効果・相乗効果を設計で活かすことができます。

【産業界での展開・用途】

- 合成梁や合成桁など鉄骨とコンクリートが並列する接合部への適用
- 柱脚や杭頭接合部など鉄骨とコンクリートが直列する接合部への適用
- SRC部材やCFT部材など鉄骨とコンクリートの合成断面部材への適用

連絡・問合せ先

 広島工業大学 研究支援機構 〒731-5193 広島市佐伯区三宅2-1-1
 (事務窓口: 研究・地域連携支援部) TEL:082-921-4222 FAX:082-921-8963
 URL <https://www.it-hiroshima.ac.jp/for-research/office/> E-mail kyo-kiko@it-hiroshima.ac.jp